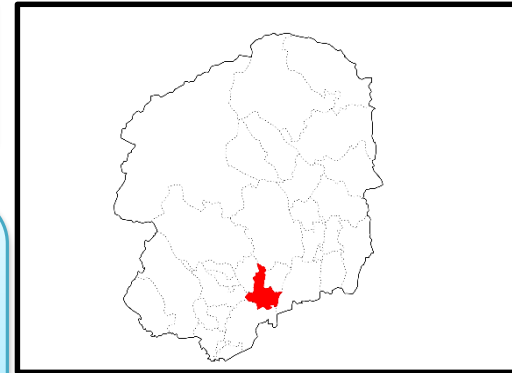


# 平成29年度 下野市地域公共交通会議 (栃木県下野市) (地域内フィーダー系統確保維持事業)

## 地域の公共交通の現況

本市は、平成18年1月に3町（石橋町・国分寺町・南河内町）が合併し下野市となった。市内には、南北にJR宇都宮線が通り、石橋・自治医大・小金井の3駅がある。民間運営のバス路線については、JR石橋駅から宇都宮市方面と真岡市方面への2路線と、JR自治医大駅と自治医科大学附属病院間の1km程度の1路線が運行されている。また、JR小金井駅西口には、小山市のコミュニティバスが乗り入れをしている。平成23年11月から交通空白地域の解消を図るためデマンドバスを運行している。利用者は市内全域からある。



## 事業の目的・必要性

市民の多くは、日常の移動手段として自家用車に大きく依存している。しかし、自動車を運転できない高齢者等の交通弱者にとっては、非常に不便な状況にあり、そのため市内の公共施設、医療機関、商業施設等に移動できる地域公共交通は必要不可欠である。現在、運行している本市デマンド交通は、地域市民のニーズに合った公共交通として定着しており、更に運行内容の充実を図りながら本事業を推進する必要がある。

## 事業の概要

市内全域を、合併前の旧行政区（石橋・国分寺・南河内）でエリア分けし、各エリアにワゴンタイプ(10人乗り)を1台ずつ配置し、目的地まで送り届ける「完全ドア・トゥ・ドア型」により運行している。

市の中心地点である市役所を乗継施設とし、エリアを超えて利用する場合は、基本的に共通乗継施設において乗継をする。ただし、公共性が高く、利用者が多い自治医科大学附属病院・健康福祉センター・ゆうゆう館・市役所は全エリアから直接乗り入れできることとしている。また、乗合者が少数等で時間的余裕がある場合に限り、乗継をせずに目的地へ直行で運行し、利用者の利便性を図り、効率的な運行を行っている。なお、事前登録制度を採用しており、利用の際には事前の利用登録(初回のみ)と利用便の1時間前までに電話予約を行う必要がある。

### 【デマンド交通「乗合タクシー」】

事業者名：関東交通株式会社  
運行区域：下野市全域(石橋・国分寺・南河内の3エリア)  
運行日：月曜日から土曜日 ※祝日及び振替休日、年末年始(12/30～1/3)を除く  
運行時間帯：午前8時00分～午後6時00分  
運行本数：各エリア 10便/1日  
運行車両：10人乗りワゴン車 3台(エリアごとに1台配置)  
運賃：大人(中学生以上)300円・小学生200円・未就学児無料(ただし、保護者同伴を要する)

面積	74.59km <sup>2</sup>
人口 (H30.1.1時点)	60,323人
15歳未満	7,939人
	65歳以上
高齢化率	23.69%
世帯数	23,710世帯

## 協議会開催状況

- 協議会の開催状況 2回開催
  - ・第1回(平成29年1月25日)  
デマンドバス運行状況  
地域公共交通確保維持事業  
(事業評価)
  - ・第2回(平成29年6月21日)  
デマンドバス運行状況  
地域公共交通確保維持事業

## 前回の事業評価結果の反映状況

平成28年4月に新たな総合連携計画を策定し、それに基づいてデマンドバスを運行している。市民講座や学習会、民生委員の定例会等でデマンドバスのPRと併せて意見交換の場を持ったり、アンケートを実施して利用者や市民の意見を聞く等、地域に根付いた持続可能な地域公共交通体系の確立に向けて取り組みを行った。

## 定量的な目標・効果

**【目標】**  
高齢者外出支援事業、子育て世帯外出支援事業の継続、デマンドバスのPR強化等の利用促進により1日当たりの利用者数を120人とする。

**【目標を設定した理由】※何故この目標にしたのか**  
下野市地域公共交通総合連携計画において行った需要予測に基づき、1日当たりの利用者数を120人以上と設定した。

**【効果】**  
デマンドバスの運行維持により、誰もが快適に移動できる交通環境を整え、地域の活性化と市民の生活満足度の向上を図ることが出来る。



## 目標効果の達成状況

1日当たり利用者数: 76.7人

### 【目標を達成できなかった要因(分析)】

民生委員や市民講座やアンケートの実施など、PRや市民のデマンドバスに対する意見や要望の収集に努めたが、限定的なものになってしまった。  
今後、PR活動を拡大すると共に、自家用車への依存度が高いことを考え合わせ、市民の関心を喚起するよう、PR方法や施策を検討する必要がある。

## アピールポイント

利用者を目的地まで送り届ける「完全ドア・トゥ・ドア」型運行を実施している。  
基本的にエリアを超えた利用には乗換を必要としているが、利用者が多く、公共性の高い3施設へは直行できるように配慮している。  
また、65歳以上の運転免許証自主返納者、75歳以上の高齢者、未就学児を持つ子育て世帯を対象に、外出支援事業としてデマンドバスの回数券を交付し、利用者の増加、利用促進に努めている。

## 今後の改善点

引き続き利便性が高く、効率的な運行を継続しながら、利便性や効率性の向上を目的に今後の運行形態や内容について検討する。  
また、PRを強化するとともに、その内容についてもより市民の関心を引けるよう工夫し、利用促進を図る。



